

ガバナーメッセージ

2017-18年度 国際ロータリー第2800地区
ガバナー 鈴木一作



RIテーマ ロータリー：変化をもたらす
(ROTARY : MAKING A DIFFERENCE)

地区目標 美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

「ロータリー：変化をもたらす」とは？（発展）

2017-18年度RI会長イアンHSライズリー氏（オーストラリア、公認会計士）は、2017年1月の国際協議会において、今年度のRIテーマを上記のように発表されました。その上で彼は、「ロータリーの価値ある活動は、世界に、地域に、ロータリークラブに、そしてロータリアンに大きな変化をもたらすでしょう。それは、『変化』という『発展』です。そして、これこそが、私の年度のRIテーマです」と力強く謳い上げたのです。



全クラブがRI会長賞をとって欲しい

イアンライズリー氏は、その「変化（発展）をもたらすロータリー活動」の目標（ゴール）として、「全クラブにRI会長賞をとって欲しい」という要請をされました。確かに今年度のRI会長賞の取得条件は、「世界の発展、地域社会の発展、そしてロータリーの発展」をもたらすような項目です。しかも、その達成すべきレベルは、例年よりも容易なものばかりです。

植林運動の提唱

さらにイアンライズリー会長は、「全会員が一人一本の木を植える運動」を提唱されました。これは、「植林は地球環境の保全・蘇生そのものであり、世界発展のために欠かせない意義ある活動である」という、彼の強い思いから出た言葉です。

2800地区からRI理事を出したということ

さて、RIの理事会には、全世界から選ばれた任期2年の理事17人がいます。すなわち、RI理事は全世界ロータリアンのトップリーダー17人だということです。そのRI理事（2017～19年）に、2800地区から石黒慶一（パストガバナー）を出したということは、我々山形県のロータリアンにとって大変名誉なことです。石黒RI理事には大いに活躍していただけるよう、我々も精一杯の応援をしたいものです。そういう意味では、2800地区の全クラブがRI会長賞をとり、かつ植林運動を実施することは、イアンライズリー会長の思いに応えることであると同時に、何よりも石黒RI理事への最大の応援です。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

RI会長のロータリーに対する思いと情熱

本年1月の国際協議会の最終日、イアンライズリー氏は感動的なスピーチをされました。すなわち、「会場の皆さん、今こそロータリーを学びましょう。親しみ睦み合いましょ。熱い情熱を胸に、皆で奉仕に取り組みましょ。そして、平和を目指しましょ。我々は、そこに大きな感動を共有し合えるのです。なぜなら、私達はロータリアンです！」と、涙ぐみながら力強く語ったのです。イアンライズリー会長は、ロータリーを深く学び、十分に理解し、こよなく愛しています。なにより、ロータリーは人類の幸福と平和の礎となる活動であることを信じ、自らがロータリアンであることに誇りを持っているのです。私は彼のロータリーに対する純粋な思いと情熱に、妻と一緒に胸を熱くしながら 会場のstanding ovation に参加しました。

地区目標にこめた意味

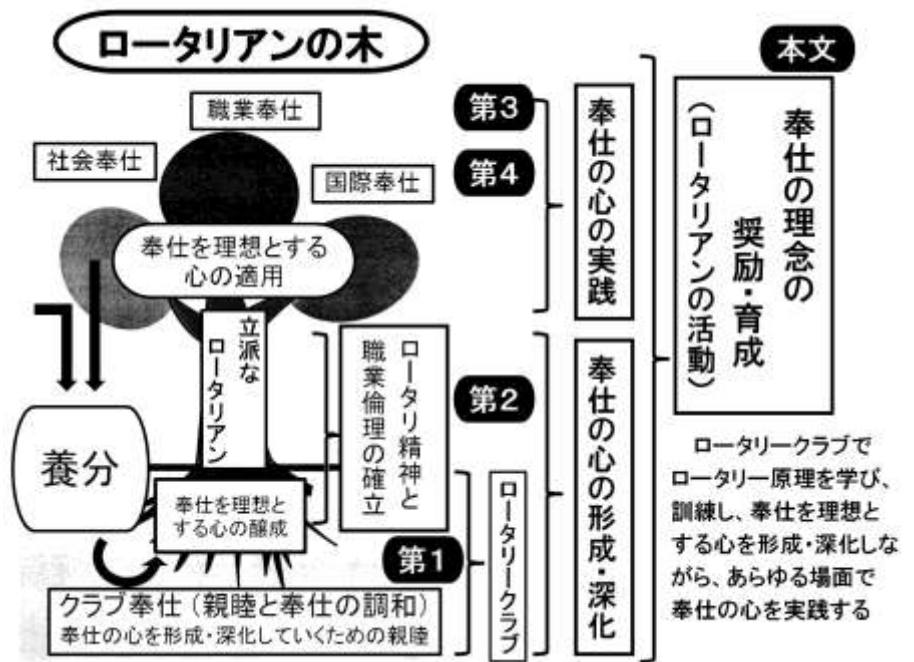
その時、私は確信しました。「ロータリーが世界に、地域に、ロータリークラブに、そしてロータリアンに『変化』という『発展』をもたらすような価値ある活動を行う」には、まさに上記の下線部、すなわち「修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動」に満ちた活動と、「美しい心、ロータリアンの矜持」が大切だということをです。そして、それこそが今年度の地区目標です。

ガバナーの定義と任務

国際ロータリー細則によれば、ガバナーは「その地区において、RI理事会の一般的な指揮、監督の下に職務を行うRIの役員」であり、ガバナーの任務は「地区内のクラブに対する指導および支援を行うことで、『ロータリーの目的』を推進すること」と明記されています。これらの点を、皆様には十分に理解しておいて欲しいのです。

『ロータリーの目的』の重要性

ロータリーで最も重要なことは、言うまでもなく『ロータリーの目的』の推進・達成です。なぜなら、RI、RI理事会、地区、クラブ、そして全てのロータリアンに共通した目的だからです。それだけに、『ロータリーの目的』の内容を正しく理解し、その推進・達成に励んでもらえるよう、この1年間、何よりも心がけていきます。まずは、上図に記した「ロータリーの木」で、『ロータリーの目的』を考えていただければと存じます。



「戦略的優先項目」と「CLP」は手法である

RIは、今後の戦略計画の一環として、次の「戦略的優先項目」と「CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)」の達成を強く求めています。最近のRIが目指している方向を知る上でも、大切な内容だと思います。

<戦略的優先項目 (2014年10月：RI理事会決定38号<一部改編>) >

- ①<クラブのサポートと強化> 会員増強・拡大とリーダー育成
- ②<人道的奉仕の重点化と増加> 持続可能な組織的奉仕活動の充実・活性化
- ③<公共イメージと認知度の向上> 積極的広報
- ④<財務的持続可能性および業務効率性の改善> 財源の確保・増進・効率的活用

<CLP (2015年1月：理事会決定118号<一部改編>) >

- ①<会員増強・拡大> 会員基盤を維持、拡大する。
- ②<奉仕プロジェクト> 地元や外国の地域社会のニーズに沿ったプロジェクトを実施し、成功させる。
- ③<ロータリー財団支援> R財団に対して、財政的貢献およびプログラム参加を通じて支援する。
- ④<リーダー育成> クラブの枠を超えてロータリー全般にわたって奉仕できるリーダーを育成する。

留意すべきは、「戦略的優先項目」にしても「CLP」にしても、あくまで『ロータリーの目的』を推進・達成するための手法であるということです。つまり、目的と手法を履き違えないようにして欲しいのです。

地区運営上の指針

ガバナーは、RIの役員として「戦略的優先項目」や「CLP」を奨励しなくてはなりません。したがって、地区運営上の指針として、上記の内容を踏まえながら、「米山奨学会事業」、「青少年交換事業」、「親睦」も入れて、以下の8つを重点事業といたします。

< 8つの地区重点事業 >

- ①会員増強 ②奉仕プロジェクトの充実・推進 ③公共イメージと認知度の向上 ④ロータリー財団の支援
⑤米山奨学会の支援 ⑥青少年交換事業の推進 ⑦リーダー育成 ⑧親睦(我々は、ロータリーの仲間である)

実際には、上記①～⑧は、どれも地区として継続的に実施していくべき大切な事業ばかりです。2017-18年度は、その中でも「②奉仕プロジェクトの充実・推進」、「⑦リーダー育成」、「⑧親睦(我々は、ロータリーの仲間である)」を重視したいと考えています。具体的には、以下の5つを重点目標として掲げ、それらの達成に向けて精進する所存です。

< 5つの重点目標 >

- ①「今日は来て良かった」と、誰もが思う会合と事業を！
②ロータリーを学び、好きになり、活かし、広めるリーダーを！
③「ロータリー、ロータリーの奉仕哲学、ロータリーの目的」の理解を！
④自由討論で親睦と敬愛の念を深め合う「フォーラム例会」と「IM」を！
⑤(飲食を伴う)夜の例会で、ガバナーのクラブ公式訪問を！



ロータリーとは？

ガバナーである以上、ガバナーとしての「私のロータリー観」をお話することは、何よりも大切なことだと思います。先ずは、以下の3つを読み比べてください。



- ①ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業および専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である。

(1976年：R I 理事会決定)

- ②ロータリーの根本は、利己と利他の心を上手く調和させる「超我の奉仕」という名の人生哲学である。それは、実生活上、実に道理にかなった「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉を原理・原則とした人生哲学である。

(1923年：決議23-34の1) <一部改編/要約>

- ③ロータリーは、事業、専門職務、地域社会のリーダーらによって構成され、会員間の親睦と敬愛と寛容の醸成、個人の修養と資質向上、事業の維持・発展に努めるとともに、家庭や仲間、職場、地域、国際社会における幸福の達成に寄与する「奉仕の心と実践」に満ちた立派なロータリアンを育てる世界的な団体である。

(Guy Gundaker の「ロータリークラブの定義」と最近の「R Iの方針」を参考にして、私が作成した文書)

友情と自己研鑽と職業奉仕

上記の①と②は、ロータリーの公式文書であり、重要な内容です。しかし、皆様は何か物足りないように感じませんか？ 物足りないもの一、それは「友情(会員間の親睦と敬愛と寛容の醸成)」、「自己研鑽(個人の修養と資質向上)」、そして「職業奉仕の基本的な考え方(事業の維持・発展に努め、事業を通じて社会に奉仕する)」の3つだと思います。実は、その3つとGuy Gundaker の「ロータリークラブの定義」を踏まえた上で、最近の「R Iの方針」も加味しながら作成した文書が上記の③です。

日本のロータリーは、この3つを大切にしてきたことが大きな特徴だと思います。これは、日本のロータリーの礎を築いた米山梅吉氏が、『A Talking Knowledge of Rotary』(1916年)の著者Guy Gundakerの信奉者だったことが影響しているのでしょう。この本は、当時のロータリーの奉仕概念とクラブ運営の在り方を体系化したもので、史上初めてのロータリーの解説書です。2800地区のホームページ『ロータリーを学ぶ』のコーナーに、本書の解説もあります。ぜひ御高覧ください。

Guy Gundakerのロータリー観

ロータリーの創始者は言うまでもなく Paul P Harris であり、Chesley R Perry、Herbert J Taylor、Arthur F Sheldon などの偉人、哲人も多いのですが、ロータリーの発展に最も貢献した人物を一人だけ挙げるとすれば、私は迷わず Guy Gundaker の名前を挙げたいと思います。彼ほどロータリーを合理的に分析し、まとめあげ、冷静沈着に心熱く表現し、後世に多大な影響を残した人物はいないでしょう。実際、決議 23-34 をはじめ、今の「ロータリーの目的」にも彼の言葉や考え方が残っているのです。

以下に、Guy Gundaker のロータリー観を記します。

- ①ロータリアンの「人間性の向上」と「事業の発展向上」
→ ロータリーが説く高い倫理基準と様々な奉仕を、自己の事業や専門職務において実践する。
- ②ロータリアンの職種・業界全体の向上
→ 同業者の団体において、ロータリーからの大使として高い職業倫理基準と奉仕理念を業界に広め、その業界をより良くしていく。
- ③ロータリアンの家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上
→ あらゆる生活の場面で、積極的に価値ある行動(奉仕)を実践し、世の中を良くしていく。
- ④ロータリークラブは、上記①～③のための「訓練、学びの場」である。
→ 例会は、会員同士が様々な討論、意見交換、情報交換などを行う場である。
- ⑤ロータリーの究極の目的は、「素晴らしい真のロータリアン」になることである。



上記のGuy Gundaker のロータリー観は、私の「ロータリー観」の基盤でもあります。留意して欲しいのは、④と⑤は「ロータリーの教育的性格(ロータリーは、立派なロータリアンを育てる)」に繋がる内容だということです。すなわち、我々がよく耳にする「入って学び、出でて奉仕」や「自己研鑽の奉仕」の原型が、既に記されているのです。

ロータリーの教育的性格は、その後も脈々と受け継がれてきました。例えば、1954-55 年度のRI会長で、四つのテストの創始者としても有名な Herbert J Taylor は、“Rotary is maker of friendships and builder of men”(ロータリーは友情を作り、人を作る)と述べています。また、1974-75 年度RI会長の William R Robbins も、“Rotary’s first job is to build men”(ロータリーの第一の仕事は、人作りである)と述べているのです。

フォーラム形式の例会やIMを

残念なことに、最近では、上記④の「例会は、会員同士が様々な討論、意見交換、情報交換などを行う場」が疎かになってきたような気がします。我々ロータリアンは、誰もが見識の高い職業人であり、地域の代表でもあるのです。有名な講師を例会に招くよりも、会員によるスピーチ、会員同士の語り合いこそがロータリーの真髄だと思います。だからこそ私は、友情(会員間の親睦と敬愛と寛容の醸成)と自己研鑽(個人の修養と資質向上)の観点からも、フォーラム形式の例会やIMを提唱します。

RI テーマと地区目標は車の両輪

「ロータリーは、時代の変化に応じて変わらなくてはならない」という考えに異論はありません。実際、RI会長イアンライズリー氏によるRIテーマ「ロータリー:変化をもたらす」も、価値ある変化(発展)を目指すものです。しかし、変えてはいけないものの多くがGuy Gundakerのロータリー観にあることも、我々ロータリアンは銘記するべきではないでしょうか？

私は、「Guy Gundakerのロータリー観」を大切にしながら、今後の2800地区が目指すべきロータリーの道筋(変化、発展)を皆で考えていければと思います。そして、その道筋を探っていくために、地区目標「美しい心、ロータリアンの矜持 ～ 修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～」を掲げました。RIテーマと地区目標を車の両輪としながら、この1年間、ガバナールとして修養と精進に努めたく存じます。